

第213回 番組審議会

1. 日 時 平成24年6月12日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 11名(欠席委員数 1名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
三浦 宏(副委員長)
—以下50音順—
久慈 浩介
斎藤 純
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
原 圭介
村上 幸子
八木橋 伸之
役重 真喜子

○ 会社側出席者(6名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
小原 忍(専務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役編成技術局長)
藤原 銀司(取締役営業局長)
田山 裕明(編成技術局局次長)
大坪 裕次(めんこいエンタープライズ 制作部)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議題

わがまま！気まま！旅気分

あの日を忘れない。でも前へ向かって！岩手・三陸復興応援ツーリズム

平成24年5月26日(土) 13:00~13:55 放送

5. 議事概要

今回は5月26日(土)に放送した「わがまま！気まま！旅気分 あの日を忘れない。でも前へ向かって！ 岩手・三陸復興応援ツーリズム」を審議しました。議事の概要は以下のとおりです。

●岩手めんこいテレビ 田山プロデューサーの説明

- ・「わがまま！気まま！旅気分」は、今年度から「めざましテレビ公認」というタイトルが外れた他、BSフジの放送時間が午後11時からに変更になり、番組尺も55分に統一されるなど、少しリニューアルされた。
- ・今年度も、めんこいテレビは3本のエントリーをしているが、今回の番組はリニューアルした「旅気分」の1本目。
- ・放送の時期を考慮して、楽しい旅番組というコンセプトに「復興支援」という位置付けを加えて制作に臨んだ。

●めんこいエンタープライズ 大坪ディレクターの説明

- ・「三陸復興応援ツーリズム」、と言うサブタイトルをつけ、復興に向けて立ち上がる沿岸の方々を応援しようと言う趣旨で番組を構成した。
- ・旅番組として、震災の影響が残る三陸沿岸をどのように紹介するか悩んだが、沿岸の方々の「町は壊れてしまったが、自然はほとんど変わっていない」、「観光を盛り上げてもらう

事で復興に弾みがつく」と言う言葉がヒントになった。

- ・「岩手沿岸は今、前を向いて歩き始めている」、と言う内容で進めようと、編集では出演者の笑顔を多く取り込むよう心がけたが、下を向いていた気持ちをいかに前向きに変えたか、という部分を盛り込めば、深みのあるものになったのではないかと考えている。

●出席委員からの意見・感想

- ・復興をめざす沿岸の人たちの明るい笑顔に元気づけられた。
- ・沿岸の方々の「遊びに来てもらって初めて前に進める」など、生の声を発信できたことがよかった。
- ・伊藤健太アナウンサーの不器用ながら素直なキャラクターで番組が盛り上がった。
- ・ナレーションの千葉絢子アナウンサーは、落ち着いていて声の質が聞きやすかった。
- ・エンディングで連絡先のおさらいがあったのは親切だった。
- ・情報を紹介するスーパーは、表示時間を長くしたり、繰り返してほしい。
- ・過剰な演出が気になるところがあった。
- ・県北から県南、また北に戻る番組構成に違和感があった。
- ・県外の人たちのために、沿岸への交通アクセスや宿泊の情報を入れて欲しかった。
- ・悲惨な部分を積極的に排除し、明るく前向きな部分で押し通した番組で、この時期に「わがまま！気まま！旅気分」という番組タイトルが出てきたことに奇異な感じがした。

- ・紹介された景色のなかで、天候のせいで今ひとつのものがあつた。写真で良いから、天気の良い日のきれいな景色を見せて欲しかった。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとつた措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成24年6月12日(水) 産経新聞 東北版

* 平成24年6月23日(土) 午前4時32分から4時35分まで「めんこいテレビ番
審りポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項
特になし